The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

朝鮮・虚應堂普雨禪師の念佛禪について

韓　普光（泰植）

1．序論

虚應堂普雨(1507？-1565)が生存した朝鮮中期は朝鮮佛教の最大の暗黒期であった．彼はひどい崇儒排佛の政治的な状況の中でも佛法を中興させるために渾身の努力を盡くしたが，政治的な犠牲者となり，結局は殉教してしまった．彼は文定王后(1501-1565)の篤實な信仰心によって廢止された度僧制度を復活させ，僧科制度を復元して5回の選佛場を開き朝鮮佛教の正法眼藏を繼承する人才を拔擢したのである．

朝鮮史では彼について妖僧であると記録されているが，彼が韓國佛教史に果した業績は多大であるので彼を再評價しなければならない．したがって，本研究では彼の生涯と業績及び念佛禪について再照射してみよう．

2．普雨禪師の生涯と業績

彼の法名は普雨であり，號は虚應堂，また，懶庵である．そのほかにも碧雲，逍遙子，圓澤などを使用していた．彼の出生年度，俗姓および家族關係などについてはいままであきらかになっているものはない．ただ，彼の出生については中宗2年(1507)から4年(1509)までに出生していたであろうと推定される．彼は15歳に金剛山の摩訶衍で得度した．

彼が金剛山で出家したあと，金剛山に入山する前までの約10餘年間の行績については詳しいことは知らないのであるが，佛教經典と儒書を渉獵し，また，詩文も習得した修學期であると推定している．彼は自身が佛經の三藏を讀み，また，周易も習得しているという詩もある[1)]．

彼の求道期は中宗27年(1532)頃，金剛山で修道に入って多くの寺刹を尋ねて詩も詠み，とまりながら6年間を修行して悟りの境地を體得した．そして，1年間下山の後，また，金剛山に入って4年間修行して10年間を金剛山で住錫する

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

ようになった.

そのあと，咸鏡道の釋王寺の隣近にある隱仙庵で住錫しながら夏安居を行なった．その時，彼の名聲は廣く知られ，僧侶達と地方の儒生達及び醉仙である鄭萬鍾など高位官僚達も尋ねてきて詩を詠みあったのである.

明宗3年(1548)12月15日に文定王后の慈旨を受けて奉恩寺の住持になった．その時の歳はおそらく40代の初めごろである．彼はその時より佛教界の中興のために獻身的な努力をした．その時,文定王后である尹氏は信仰心が篤實であり，13歳の若い王である明宗の母后として，攝政として政治の一線にあったので，彼女の言葉はそのまま王命のようになったのである．しかし，これについて儒林の排斥は強く，朝廷大臣と弘文館,司憲府,司諫院,成均館および地方の儒生からの反對の上疏があり，翌年の5月までに446回に及んだのである[2].

このような反對と普雨に対する謀略は言葉では表現できないほどであった．それにもかかわらず，明宗6年(1551)6月25日には王の特命によって普雨を判禪宗事都大禪師と奉恩寺住持に任命し，また，守眞を判教宗事都大師と奉先寺住持として命じたのであった[3].

僧科制度は明宗朝において度僧制度が復活した後，明宗7年(1552，壬子)に初めておこなわれて以来3年に1回，總じて5回開かれた．明宗7年におこなわれた初めの僧科では禪宗の僧侶21名と教宗の僧侶12名が合格した(『明宗實録』卷13，7年4月 甲子條)．明宗7年1月には99寺が395寺に増えた(『明宗實録』卷13，7年 正月 庚戌條)．このとき僧科によって輩出された僧侶達が朝鮮佛教の正法眼藏を繼承し，また，日本の朝鮮侵略である壬辰倭亂でも僧兵として活躍した．明宗7年の第1回の大選に合格した休靜西山大師と明宗16年(1561)の第4回に合格した惟政四溟大師の役割は大きかったのである.

しかし，文定王后は65歳の老齡であり，また，彼女の息子である順懷王世子を13歳に亡くしたので心身はきわめて衰弱して鬪病中であった．それにもかかわらず，彼女は檜巖寺の重創回向佛事である無遮大會のために毎日，沐浴齋戒し，精進料理ばかり食べていたので病氣がさらに悪くなった．それによって彼女は明宗20年(1565)4月7日に昇遐した．王后は前日である6日に，朝廷大臣達に自分の死後にも佛教界の發展をたのむ諺書遺教を殘したが，その遺言は守られなかった(『明宗實録』卷31,20年4月 壬申條)．大臣達は大妃の死亡原因が普雨であるとし，彼を罰することを上疏したのである.

これによって，普雨は明宗20年(1565)6月に濟州道に流配された(『明宗實録』卷

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

31，20年6月 丁丑條）．そしてその年，9月に濟州牧使に來た邊協によって慘酷にも誅殺され，そのあくる年，明宗21年4月より両宗と僧科制度が廢止された(『明宗實録』卷32，21年4月 辛巳條)．普雨の死亡は明宗21年(1566)4月に國家に報告され記録されている．

彼の著述は『虛應堂集』2卷，『懶庵雜著』1卷，『水月道場空花佛事如幻賓主夢中問答』1卷，『勸念要録』1卷などである．

3．普雨禪師の念佛禪

普雨は禪と教および儒佛仙の三教にも理解が深かったと思われる．彼の禪思想について要約すれば，日常生活の中で禪を修行することを強調している．即ち，平常禪ということができる．したがって，祖師禪また，看話禪より無念禪，如來禪，最上乘禪について強調していると思われる．

また，儀式と念佛，看經などにも多大な關心を持っていた．そのことは，彼の著作である『道場空花佛事如幻賓主夢中問答』と『勸念要録』に述べられ，儀式の時の心の持ちかたの重要性について記している．なお，念佛を勸めるために往生譚を編纂し，また，これを韓國語で飜譯したこともある．これは淨土信仰を廣めるためである．そして，彼は禪修行のみに安住せず教學も包容し，念佛と禪を兼修する念佛禪も雙修した．また，淨土念佛に關する文章も殘っている．彼の念佛修行を要約すると，一，念佛禪の修行方法を選擇し，他人にも勸奬している．二，見佛に關する見解である．三，極楽往生發願である．四，往生説話の流布による淨土信仰の弘布である．五，觀法と稱名念佛の修行である

一，普雨の念佛禪の修行について考察してみよう．彼は參禪修行する道伴に送った「寄禪友」という詩で念佛と看經修行について怠慢してはないかと質問している．

四山如玉月光浮　　出定無端憶共遊
念佛誦經無懈否　　寸陰曾不爲君留

という[4]．この詩は禪室で共に參禪修行したことがあった親しい道友に送ったものと思われる．また，普雨が禪院で坐禪修行中，しばらく放禪したときに作った詩であろう．轉句では道友に念佛と看經修行することを強調している．また，結句では一所懸命に修行することを勸めている．ところで，ここていう修行とはなにか．おそらく，參禪と念佛と看經であろう．

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

そして，普雨は禪院で修禪をしながら念佛と誦經にも關心が多かったと思われる．禪院で念佛を兼行したといえば，それは禪淨雙修の念佛禪であり，また，誦經を兼ねたといえば，禪教兼修である．當時の禪院では看話禪のみ修行していたのではなく修禪と共に念佛および誦經も行っていたと推定する．

なお，彼は檜巖寺を重修したあと「檜巖寺重修慶讃疏」を作った．その中に十二時念佛することを述べている．そこには，

一國伽藍之喉襟 六和苾蒭之淵藪 祝君壽億萬年之淸梵 無虛於十二時念佛名 三九寮之高禪 常居於五百指

という[5]．この寺は國家の中心にある伽藍であり，六和による和合された僧侶達の叢林である．また，王の長壽を祈願する淸淨な伽藍である．そして，十二時のあいだ念佛の音が絶えないことと，なお，39の寮舍の禪房では500名の禪僧が修行していたのである．

また，39室の禪房には500人の禪僧が修行することを教えている．したがって，檜巖寺は念佛と修禪が共存する，念佛と修禪を兼修する道場であったと考えられる．即ち，當時の朝鮮朝の中心の寺刹である檜巖寺では，念佛禪を修行していたと推定することができる．

二，見佛修行に關する普雨の見解を考察する．普雨は自分の悟りの境地と修行の過程について，『懶庵雜著』の「示小師法語」で述べている．この法語は小師が質問し，これに答える形となっている．全體が7項の質問よりなり，その中に見佛に關するものがあり，

問 即心是佛 心佛無相 正同虛空 實非見聞之所及 奈何敎中 多有稱見道見佛之說也

約本智發明　斯假稱名見
非眼所能覩　唯證乃自知
若能離斷常　即見自身淸
見身淸淨處　即見佛淸淨
乃至見諸法　悉皆非他物
無非是諸佛　亦無非是法 ---
所謂法性者　陰陽四時是
此即諸佛身　無非第一義
倘能知此理　是名爲見佛
佛道非二物　以一隅知三

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

と述べている[6]．普雨は平素に法門を説くときに見道と見佛について述べていたようである．果たして人間の目で佛を見ることができるかという疑問に対し，普雨は偈頌によって答えている．見佛とは文字上では見の字を使っているが，意味上では見というより證であり，即ち，證得である．見道は證道であり，見佛は證佛である．これを見性あるいは見佛という．したがって，見性は見道であり，これは證性である．また，見佛は證佛であるという．

彼は念佛三昧によって見佛三昧を成就することを強調しながら，見佛は目で確認する見佛ではなく，智慧によって證佛することであるという．これが彼の念佛禪法の特徴であろう．

三，極楽往生發願である．彼の往生發願は預修齋疏と薦魂疏などの各種の疏に現れている．清平寺で開催された預修齋の「預修十王齋疏」によれば，

> 報盡之夕 共覩彌陀 命終之朝 俱生極楽 十層楼閣 隨各願而逍遙 七寶蓮臺 與諸佛而遊戯 餘波所洎 云云

という[7]．この『預修十王齋疏』は御命によって清平寺で行なわれた預修十王齋の祝願文である．この末尾に極楽往生を願うものがある．この發願では臨終時に阿彌陀佛を親見し，往生極楽して寶貝楼閣で遊びながら七寶蓮花臺で諸佛菩薩を親見することを發願している．

また，「薦母疏」にも懇切に極楽往生を發願している．

> 伏願某霊駕 承斯勝縁 登彼楽國 九品蓮臺之上 恒聞金口之音 百層楼閣之中 常覩玉毫之相 亦願己身

という[8]．この疏では亡者の往生極楽と九品蓮臺の中の上品に往生することを發願している．ところで，前の「預修十王齋疏」では十層楼閣といったが，ここでは百層楼閣というのが相異する點である．また，阿彌陀佛の説法を聞いて亡者も阿彌陀佛と同じ佛身を受けることを發願している．

四，彼は往生説話を弘布して淨土信仰を鼓吹したのである．『勸念要録』の編纂の動機はおそらく文定王后のためであったと思われる．彼は文定王后より絶對的な信任を受けて禪宗判事になり，また，奉恩寺の住持にまでなったが，彼は宮闕に入闕することができなかった．しかし，文定王后と普雨大師の関係は明宗3年(1548)末より明宗20年(1565)4月までの16年間にわたって続いた．そのように関係を長い間持續することができたのは朝鮮語である諺文の手紙のためであった．

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

したがって，『勸念要録』は文定王后を教化して信心を深めるために編纂した佛教往生の物語である．そして，彼は諺文(朝鮮語)を讀むことができる王后のために，往生譚である漢文『勸念要録』を朝鮮語に飜譯した．彼は平素にも種種の經典を諺解したことがあった．彼の詩の中の「奉似鄭同知軒右」には“暫輟飜經筆”という文句もある[9]．當時，佛經を朝鮮語に飜譯するのは漢文を知らない一般庶民大衆に佛教を廣めるための教化方法であったと思う．

『勸念要録』の構成は11篇の往生譚で成立されており，その中の「王郎返魂傳」は朝鮮の往生譚であり，その以外の10篇は中國の往生譚である．その理由は「王郎返魂傳」を除くほかの10篇の出處は中國の元の王子成が集録した『禮念彌陀道場懺法』巻4の「往生傳録」[10]に登場する34篇の往生譚の中から選擇されたものであるからである．また，「王郎返魂傳」のみが『禮念彌陀道場懺法』には見られないので，その舞臺が中國ではなく，韓半島であると推定することができる．

その往生譚について一つ一つを要約すれば，

①王郎返魂傳は韓半島の往生譚として佛法あるいは念佛者を誹謗するものは自分の罪を懺悔して，念佛すれば，その功德によって長寿を得，往生することができるという物語である．これは當時の朝鮮時代に佛法を誹謗した儒生達と士大夫達の罪悪を間接的に批判する意味がある．そのあとは全て『禮念彌陀道場懺法』巻4の「往生傳録」から轉載されたものである．

②遠公結社傳は禮懺の「廬山遠公 結社往生」條である．

③闕公則現報傳は「晉闕公則 報現往生」條である．この二つの往生譚は中國の廬山慧遠の白蓮結社を中心とする念佛者達の往生の物語である．これは念佛結社の重要性について教えるものである．

④烏長王見佛傳は「烏長國王　見佛往生」條であり，正法による善政と百僧齋などの三寶を恭敬供養する功德によって往生できるという物語である．

⑤鄭牧卿執幡傳は「信士牧鄉　執幡往生」條であり，持戒念佛によって往生することができるという物語である．文定王后が檜巖寺の重創佛事回向法會である無遮大會のために菜食と沐浴齋戒して病氣になり，結局は死亡に至るまでの影響を与えたのがこの往生譚であろう．

⑥房翥勸他往生傳は「京兆房翥　勸化往生」條であり，他人に念佛を勸める功德によって往生することができるという往生譚である．これは念佛法を弘布して，淨土信仰を廣めることを願っている．

⑦隋文皇后傳は「隨文皇后　異香往生」條であり，隋文皇后は女身を嫌って厭離女

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

身と變成男性を願って念佛の功德によって往生することができたという物語である．

⑧荊王夫人立化傳は「荊王夫人　立化往生」條であり，奴婢と賤人も往生することができる．また，念佛法には貧富貴賤の區分もなく平等であるという往生譚である．

⑨梁氏自明傳は「信女梁氏　目明往生」條であり，念佛によって病氣も治り，また，盲人の目も開けることができたという往生譚である．

⑩童女勸母傳は「世子童女　勸母往生」條であり，世子の娘が念佛しない母に念佛するように引導して全家族が往生することができたという物語である．

⑪屠牛善和十念傳は「屠牛善和　十念往生」條であり，五逆罪と十悪者も臨終時に善知識に逢って十念念佛すれば，その功德によって往生することができるという往生譚である．

五，觀法と稱名念佛について説いている．この部分は『禮念彌陀道場懺法』にあるものをそのまま轉載している．『觀無量壽經』の第9眞身觀と第10觀音觀及び第11勢至觀の觀法について説いている．その内容は第9眞身觀でいう阿彌陀佛の白毫と眞金色身を觀ずれば，佛心を見ることができる．したがって，心念は口念よりすぐれた修行法であると説いている．觀佛は心念であり，稱佛は口念であるので觀法が稱名より重要であると強調している．

しかし，末尾では觀法について『稱讚疏』を引用して稱名念佛と心念に關して説明している．口念と心念が一つになってたがいに相應するときにその功德は無量であると述べている．ただ，口だけ念佛して，心は雜念していれば，心が散亂になるが，口と心でひとえに阿彌陀佛だけ念じ，稱すれば，80億劫の生死の罪が消滅して，また，80億劫の殊勝な功德が成就するというのである．つまり，稱名念佛と思憶念佛について説いている．

即ち，觀法では口念と心念と思念がすべて一つになって念佛すれば，口と心と思が一念になるのである．そのようにできれば，正しい觀法であり，また，稱名念佛の功德も無量であると説いている．

4．結論

以上で普雨の生涯と業績と禪思想及び念佛禪について考察したのである．

彼について『朝鮮實録』では妖僧として評價しているが，韓國佛教史では佛教のために殉教した高僧であるという．彼の業績の中でももっとも高く評價されるも

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

のは，斥佛時代に文定王后の後援によって度僧制度と僧科制度を復活させて韓國佛教の正法眼藏を繼承したということである．

彼の禪思想は一方的な看話禪のみ偏重せず，禪教一致，禪定雙修，儒佛仙の三教が同じであると説いている．彼は看話禪より如來禪，無心禪，念佛禪に近いのである．そして，禪と教の優劣また深淺について論じることは愚かしいことであると説いている．

なお，彼の念佛禪は禪淨雙修的な指導方法であり，見佛について彼の立場を明らかにしている．また，往生極楽の發願をすれば，必ず西方淨土に往生することを説いている．彼は唯心淨土だけを主唱するのではなく，指方立相的な西方淨土の發願も重要視していた．そして，『勸念要録』を編纂して，これを朝鮮語に諺解して庶民と一般大衆のために淨土信仰を鼓吹したのである．また，觀法と稱名念佛も重要視したのである．

1）『虚應堂集』巻下「有一儒士 来自無何…」（韓佛全，7，556，上）
“余曾看盡大藏經 今正晴窓坐讀易…”
2）朴映基『虚應堂 普雨 研究』博士論文（東國大學校 大學院，1998）P，39
3）『明宗實録』巻11，6年6月 壬午條
4）『虚應堂集』巻上「寄禪友」（韓佛全，7，538，中）
5）『懶庵雜著』「檜巖寺重修慶讃疏」（韓佛全，7，593，上）
6）『懶庵雜著』「示小師法語」（韓佛全，7，577，中）
7）『懶庵雜著』「預修十王齋疏」（韓佛全，7，588，上）
8）上同「薦母疏」（韓佛全，7，590，上）
9）『虚應堂集』巻上「奉似鄭同知軒右」（韓佛全，7，547，下）
10）元 王子成 集『禮念彌陀道場懺法』巻4「往生傳録」（卍續藏，128，181-192）

〈キーワード〉 虚應堂普雨，普雨，文定王后，明宗，『虚應堂集』，『懶庵雜著』，『水月道場空花佛事如幻賓主夢中問答』，『勸念要録』，念佛禪，鄭萬鍾，『禮念彌陀道場懺法』

（東國大學校教授，文博）

NII-Electronic Library Service